

信州大学-Curtin University of Technology
大学間学術交流協定に基づく
平成 18 年度夏期海外単位認定プログラム実施報告書



信州大学
SHINSHU UNIVERSITY

-2006-



Curtin
University of Technology



平成 18 年 11 月 15 日
信州大学医学部保健学科

【目次】

I. 学術交流にあたって	3
II. 学術交流の概要	4
III. カーティン工科大学の概要	6
IV. 平成18年度夏期海外単位認定プログラム	7
1. はじめに	
2. 夏期海外単位認定プログラム	
3. 研修期間	
4. 研修場所	
5. 研修プログラムの内容	8
6. 参加人数	9
7. 指導教員	
8. 研修費用	
9. 研修日程	10
10. 研修プログラム	11
11. 学生アンケート	14
12. 学生レポートおよび感想文	17
(編集後記)	



(表紙の写真は、研修最終日の修了式後、Curtin 工科大学にて)

I. 学術交流にあたって

信州大学医学部保健学科長 市川元基

本年度も看護学専攻 16 名，検査技術科学専攻 6 名，理学療法学専攻 3 名，作業療法学専攻 3 名，計 28 名の学生さん達が西オーストラリア州パースのカーティン工科大学における海外短期単位認定プログラムに行ってきました。国立大学法人の保健学科あるいは看護学科で，このように海外の大学で英語教育あるは医療系の専門教育にしっかりと触れることができる短期留学プログラムを行っている大学は他にはなく，信州大学医学部保健学科の大きな魅力の1つになりつつあります。私たちは今ようやく育ち始めたこの芽を大きな木に育てたいと思っています。

このプログラムの運営には，カーティン工科大学との事前交渉，プログラムの作成，学生へのプログラムの紹介，航空券の確保などの準備と，渡航中の学生さん達の安全と健康を気遣ってくれる教員や職員の努力が不可欠であり，これらのことに関わってくださった方々に感謝いたします。また本プロジェクトにご賛同いただき，学長裁量経費をご配慮くださった信州大学役員会の皆様と基金を寄付してくださった信州大学医学部保健学科同窓会の皆様に深謝いたします。

保健学科同窓会長 川上由行

参加学生28名と共に，カーティン工科大学への短期留学に初めて参加しました。10 時間のフライトを経て到着したのは雨上がりのパース空港で，見事な「虹」が出迎えてくれました。季節は，ちょうど冬から春への移行期。冬枯れの木々が目立つ中，芽を出した水仙が黄色い花を付け始めていました。折しも，大学キャンパスの彼方此方では「Daffodil Festival」が開かれていました。

今回の3週間を総括して最大の収穫は，Curtin 工科大学から信州大学への教員招聘について大筋で合意に達することが出来たことだと思います。

3週間の日程はとてもハードでしたが，実に充実していました。特に，2週目以降に立案された各専攻単位の専門の講義や実習は，カーティン工科大学の学生と一緒に受講するもので，どれもが刺激的で，且つ種々の面で触発の機会になったと感じた学生が多かったようです。ヘリコプター研究発祥の地である「Royal Perth Hospital」の「Microbiology and Infectious Diseases Department」を学生とともに丁寧に見学させていただき，Dr. Marshall と Dr. Warren がまさに分離に成功した，その「incubator」「実験台」等を直に見せていただきました。昨年 2005 年，同時に2名のノーベル賞学者を輩出したという「誇らしさ」が，説明して下さった研究員からも伝わって来ました。私個人としても，その旨が記されて実験室の入り口に掲げられている金属製パネルを背景に撮っていただいた写真は最大の記念になりました。

学生たちは，母国語でない言語による専門科目の受講，カーティン工科大学学生との交流，そしてホームステイ先のファミリーとの交流，また講義がない土日に企画して出掛けた近郊への小旅行，等々。わずか3週間のパース滞在でしたが，それぞれの学生たちにとって，毎日が貴重な体験の連続で収穫するものが多かったのでは，と感じました。それらを反影してか，最終日の Graduation Ceremony では，修了証書を1人ずつ受領して約1分間のスピーチを披露しましたが，なかなか味のある内容が多く感心しました。

ホストファミリーに見送られてパース空港を離陸する頃には，それまで降っていた小雨もすっかり上がっていました。

最後に，この素晴らしいプログラムを継続させていく為の試行錯誤は今後もあると思いますが建設的な意見交換の中で更に発展させていければ，と考えます。

II. 学術交流の概要

1. 学術交流協定及び学生の交流に関する覚書締結の経緯と交流実績

- 1) 1992年8月、イギリス、ロンドンで開催された第11回世界理学療法連盟学術集会に出席した信州大学医療技術短期大学部藤原孝之教授(現 郡山健康科学専門学校/東都国際ビジネス専門学校 理事・学校長)と、カーティン工科大学健康科学部ジョン・コール教授との間で教育・研究に関する情報交換が始まった。
- 2) 1997年3月、藤原孝之、楊箬隆哉両教授(現 長野県看護大学教授)およびゴウ・アー・チェン助手(現助教授)の3名が、カーティン工科大学副学長宛の本学学長親書を携え健康科学部の遠隔地教育システムに関する資料収集と共同研究課題の打ち合わせを目的として、カーティン工科大学を訪問した。カーティン工科大学学長、健康科学部長、看護学科、医学検査学科、理学療法学科、作業療法学科等のスタッフとの会談の折、両大学間の、より積極的な学術交流が話題となり、教員、学生交流の早期実現に向け検討することで合意した。
- 3) 1998年7月-8月、藤原孝之教授が文部省在外研究員派遣でカーティン工科大学健康科学部理学療法学科客員教授として滞在した折、カーティン工科大学健康科学部スタッフミーティングに出席し、当該大学の多くの教官より大学間交流に関する質問を受け、同大学教員が信州大学との大学間学術交流に興味を示していることがわかった。
- 4) 1999年3月、本学藤原孝之、楊箬隆哉両教授がオーストラリアに出張した際、副学長ジョン・ミルトン・スミス教授、健康科学部長チャールズ・ワトソン教授、看護学科主任教授マイケル・ヘイゼルトン、理学療法学科主任教授ジョン・コール、国際教育課程担当パム・ロバーツ女史等と両大学間の学術交流推進を話題に会談した。両大学の資料を交換し検討した結果、単一学部間に留まらず、広い学際領域での学術交流を目指すことを目標にすることで合意した。その際、カーティン工科大学副学長から大学間協定に関する雛形文書を預かった。
- 5) 1999年4月、学術交流協定を締結した。
- 6) 1999年5月、横浜で開催された第13回世界理学療法連盟学術集会に特別講演演者として来日したジョン・コール教授が、信州大学を表敬訪問し特別講義を行った。
- 7) 2000年8月、学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書を締結。同9月、宮坂敏夫部長以下教官、学生20名がカーティン工科大学を表敬訪問し、各学局の国際交流担当者と短期留学の可能性を協議した。帰国後、部長のもとに5名からなるチームを置き、プログラムの実施計画を作成した。
- 8) 2001年8月、信州大学医療技術短期大学部学生32名がカーティン工科大学にて第1回夏季留学・単位取得プログラムに参加した。
- 9) 2002年(第2回)は27名、2003年(第3回)は24名、2004年(第4回)は20名、2005年(第5回)は29名、2006年(第6回)は28名が夏季留学・単位取得プログラムに参加した。

2. 学術交流協定及び教員と学生の交流に関する協定書の更新

1999年4月に締結された学術交流協定及び2000年8月に締結された学術交流協定に基づく学生の交流に関する協定書は、2004年4月に信州大学とカーティン工科大学の間で、「学術交流協定」及び「学術交流協定に基づく教員と学生の交流に関する協定書」として更新された。有効期限は2009年3月までの5年間で、両校の交流は一層親密に深められることになった。

学術交流協定 (2004.4～2009.3)

教員と学生の交流に関する協定書(2004.4～2009.3)

**MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
FOR THE DEVELOPMENT OF ACADEMIC COOPERATION**

Between


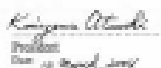
**CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY
PERTH, WESTERN AUSTRALIA**
through its Divisions of Health Sciences and Humanities

And

**SHINSHU UNIVERSITY
NAGANO, JAPAN**

In furtherance of their mutual interests in the field of education and research and as a contribution to increased international cooperation, Curtin University Of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities, and Shinshu University, have agreed that:

1. The two institutions will:
 - i) cooperate in the exchange of information relating to their activities in teaching and research in fields of mutual interests;
 - ii) promote appropriate joint research projects and joint courses of study, with particular emphasis on internationally funded projects;
 - iii) endeavour to encourage students and staff to spend periods of time in the host institution. The exchange of students will be dependent upon the execution of a formal Student Exchange Agreement mutually agreed between the parties in writing, prior to commencement of this activity;
 - iv) conduct cultural projects, as mutually agreed in writing between the parties, prior to commencement of this activity;
 - v) conduct study tours, as mutually agreed in writing between the parties, prior to the commencement of this activity;
 - vi) provide Study Abroad opportunities at undergraduate and graduate level as mutually agreed in writing between the parties prior to the commencement of this activity.



 Vice-Chancellor Professor
 Date: 11 March 2004 Date: 11 March 2004

**STAFF AND STUDENT
EXCHANGE AGREEMENT**

Between

**CURTIN UNIVERSITY OF TECHNOLOGY, PERTH,
WESTERN AUSTRALIA**
through its Divisions of Health Sciences and Humanities

And

SHINSHU UNIVERSITY, NAGANO, JAPAN

Curtin University of Technology, through its Divisions of Health Sciences and Humanities (hereinafter referred to as "CURTIN") and Shinshu University (hereinafter referred to as "SHINSHU") agree to the following terms:

DEFINITIONS

In this Agreement, unless the context will otherwise imply:

HOME institution means the institution at which the student intends to graduate. HOST institution means the institution that has agreed to receive students from the HOME institution.

ACADEMIC YEAR in the context of CURTIN means two semesters, from February to June (Semester 1) and July to November (Semester 2); and in the context of SHINSHU means April to August (Semester 1) and October to February (Semester 2).



ACADEMIC STAFF means Teaching Staff.

EXCHANGE STUDENTS means students attending the HOST institution with an obligation to pay tuition fees to that institution and whose reciprocal obligation exist for the HOME institution to accept for equivalent students from the HOST institution in exchange, subject to the conditions outlined in this Agreement.

STUDY ABROAD STUDENTS means students attending the HOST institution on a full fee-paying basis, where no reciprocal obligation exist for the HOME institution to accept for equivalent students from the HOST institution.

EXCHANGE PROGRAMME refers to student undertaking study at the HOST institution either as Exchange or Study Abroad students, and staff undertaking a period of exchange at the institution of the other Party.

CLINICAL PRACTICE refers to activities undertaken by students as part of their mandated course requirements to develop their professional competencies in working with clients. Clinical practice necessarily involves intervention requiring substantial specialist



 Vice-Chancellor Professor
 Date: 11 March 2004 Date: 11 March 2004

Ⅲ. カーティン工科大学の概要

1. 設立

- 1) 1967年: The Western Australian Institute of Technology (WAIT) として創設。
- 2) 1987年: Curtin University of Technology となる。

*カーティン工科大学の名称は、オーストラリア首相を歴任したジョン・カーティン創設者に由来する。パースは日本でも古くから遠洋漁業の基地として知られている。広大なキャンパスを有機的に機能させるため、学内に国際教育担当部門を独立させ、情報ネットワークを整備し、国内外の教育研究機関と遠隔地教育・研究を推進している。1996年から、シンガポール、マレーシア、インドネシア、香港等の教育機関とインターネットを利用した学位取得課程を展開し、実績を上げている。大学院教育では、卓越した教育プログラムが評価され、非英語圏のみならずアメリカ、カナダ、ヨーロッパの留学生も相当数在学している。

2. 位置

- 1) 西オーストラリア州唯一の工科大学(公立)
- 2) メインキャンパスはパース(Perth: 西オーストラリア州の州都。人口約120万)の郊外ベントレー(Bentley; 中心部より10キロ南東へ位置、海岸まで車で20分)に立地し、他にPerth 中心部の大学院キャンパスとその他のキャンパス(Kalgoorlie, Muresk, Sydney, Sarawak; Malaysia)を有する。

Address: Kent Street, Bentley, WA6102, Perth, Western Australia

TEL : 08-9266-9266

HP-address: <http://www.curtin.edu.au/>

3. 学部等

- 1) 学部: 経営学部(6学科), 健康科学部(6学科), 人文学部(14学科), 理工学部(10学科), 資源・環境学部(8学科)
 - 2) 大学院: 経営学(1専攻), 健康科学(6専攻), 人文科学(13専攻), 理工学(10専攻), 資源・環境学(5専攻)
- 学士, 修士, 博士課程: 合計 850 コース

4. 学生数および教職員数(2006年度)

- 1) 学生数: 34,000人(現地留学生数: 109ヶ国, 6,600人)
- 2) 教員数: 1,300人
- 3) 職員数: 1,700人

IV. 平成18年度夏期海外単位認定プログラム

1. はじめに

信州大学-カーティン工科大学間学術交流協定にもとづき、平成17年度夏期海外単位認定プログラムが平成18年8月12日から9月2日の約3週間にわたり、カーティン工科大学及びパース市内外の関連施設・病院で実施された。本年のプログラムには28名の信州大学医学部保健学科学生が参加した。

2. 夏期海外単位認定プログラム

- 1) 目的: 他文化での学習・生活体験を通じ、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
- 2) 本学における単位認定: 参加コースに応じて本学の単位として認定する。単位認定には、カーティン工科大学での全てのプログラムに参加することとし、研修レポートの提出が必須である。

【認定単位】: 国際医療協力論

3. 研修期間

研修期間: 平成18年8月12日(土)～9月2日(土), 22日間

4. 研修場所

- 1) 研修キャンパス; カーティン工科大学ベントレーキャンパス
- 2) 見学施設/演習場所:
 - (1) 看護学
 - ① Princess Margaret Children's Hospital, Perth
 - ② Regent Garden Nursing home, Perth
 - ③ King Edward Memorial Hospital, Perth
 - ④ Mount Hospital, Perth
 - ⑤ Anatomy practical session, Curtin University
 - (2) 検査技術科学
 - ① Private Laboratory, Fremantle
 - ② Australian Red Cross Blood Service, Perth
 - ③ Royal Perth Hospital, Laboratory Medicine, Perth
 - ④ St John of God Health Care, Perth
 - ⑤ ILC: The Niche, Independent Living Centre, Perth
 - ⑥ Princess Margaret Children's Hospital, Perth
 - ⑦ Laboratory Practice, Curtin University
 - (3) 理学療法学/作業療法学
 - ① Fremantle Hospital, Fremantle
 - ② Regent Garden Nursing home, Perth
 - ③ King Edward Memorial Hospital, Perth
 - ④ ILC: The Niche, Independent Living Centre, Perth
 - ⑤ Princess Margaret Children's Hospital, Perth
 - ⑥ Anatomy practical session, Curtin University

5. 研修プログラムの内容 (Curtin University of Technology)

第1週; Orientation & English Class/Hospital Communication for Health Professional (DOLIE*)

- ・ カーティン工科大学および DOLIE のオリエンテーション。
- ・ 英語力診断試験。
- ・ DOLIE による英語および医療英会話の授業。
- ・ キャンパスツアー。
- ・ 各専攻別大学専門施設, 研究室, 実験施設見学。

(* DOLIE: Department of Languages & Intercultural Education)

第2週; Hospital Communication for Health Professional /Combined Lectures(合同講義)

- ・ Hospital Communication for Health Professional (医療英語)
- ・ ヘルスケアに関する専門領域の講義。
 - ① Health Careers: Professional Structures in Australia(看護・検査・理学・作業)
 - ② Auditing(看護・検査・理学・作業に分かれて, 講義の聴講)
 - ③ The Australian Health Care System
- ・Excursion(Swan Valley)

第3週; Tutorial, Practice , Clinical Visits & Graduation Ceremony

- ・ 専攻別専門領域の講義, 施設見学, 実習, 討論。

【看護学】

- ① 専門領域講義:Aged Care/Geriatrics, Pediatrics, Rural Health Issues
- ② 実習(解剖学)
- ③ 施設見学:4. 研修場所の頁を参照。

【検査技術科学】

- ① 実習(Fremantle の私立検査室, カーティン工科大学内検査室)
- ② 施設見学:6. 研修場所の頁を参照。

【理学療法学/作業療法学】

- ① 実習(解剖学)
- ② 施設見学:5. 研修場所の頁を参照。

6. 参加人数

看護学	: 16名(1年生1名, 2年生3名, 3年生11名, 4年生1名)
検査技術科学	: 6名(1年生2名, 2年生1名, 3年生2名, 4年生1名)
理学療法学	: 3名(2年生3名)
作業療法学	: 3名(1年生1名, 2年生2名)
合計	28名

7. 引率指導教員

カーティンプログラム担当教員(川上由行 教授, 大平雅美 教授, Goh Ah Cheng 助教授, 柳澤理子 助教授, 上村智子 助教授, 松澤有夏 助手)

(大平教授, 上村助教授は1週間, 川上教授, Goh 助教授, 柳澤助教授, 松澤助手は3週間)

8. 研修費用

研修費用:学生一人 35 万円

【内訳】

・往復航空運賃	172,500 円
・特別プログラム授業料	122,400 円
英語クラス, 保健学共通講義, 専門別(看護, 検査技術, 理学療法, 作業療法)講義・実習, 施設見学(含む移動費用, 指導支援費用)	
・滞在費(3 週間)	46,440 円(ホームステイ, 食事込)
・貸し切りバス(成田往復)	9,800 円
計	351,140 円

指導教官 6 名分の航空運賃, 宿泊費は学長裁量経費および同窓会から計上された。



(キングズパークからパース市街地を望む)

9. 研修日程

- ① 8月12日午前10時半に信州大学北門よりバスで出発し、午後4時半東京成田空港に到着した。QF70便で午後8時40分に成田空港を出発した。
- ② 8月13日午前5時55分にパース空港に到着した。カーティン工科大学国際教育担当者のオリエンテーションが空港ロビーで行なわれた。その後ホームステイ先の家族(ホストファミリー)の出迎えがあり、各々がホームステイ先に出発した。学生はホストファミリーから、ホームステイ先での生活の規則、通学経路の案内(ホームステイ先は大学から徒歩20分の所からバスを乗り継ぎ約1時間かかる所までいろいろある)、周辺の案内などのオリエンテーションを受けた。
- ③ 8月14日 Curtin 工科大学にてオリエンテーション、英語力診断試験、キャンパスツアー、パース市内バスツアーが行なわれた。
- ④ 8月15日～9月1日、英語および医療英会話の授業、ヘルスケアに関する講義、専攻別専門領域の講義、実習、施設見学のプログラムが実施された。プログラムの詳細をP11～13に示した。
- ⑤ 9月1日午前10時30分、Farewell Lunch, Graduation Ceremony(修了証書授与式)が行なわれ、学生が一人ずつ英語でスピーチをした。午後1時に学生はホームステイ先に帰宅し、午後8時00分、ホストファミリーに送られてパース空港に集合、午後11時00分 QF79便にてパース空港を出発した。
- ⑥ 9月2日午前9時55分、東京成田空港に到着した。バスにて帰松し、信州大学北門に午後4時到着した。



Curtin 工科大教員による English language class

DEPARTMENT OF LANGUAGES AND INTERCULTURAL EDUCATION
SHINSHU UNIVERSITY ENGLISH AND HEALTH SCIENCES STUDY
TOUR PROGRAM AT CURTIN UNIVERSITY
13 August – 1 September 2006

TIMETABLE**Week One: Nursing Group (Group A)**

Time	Sunday 13 Aug	Monday 14 Aug	Tuesday 15 Aug	Wednesday 16 Aug	Thursday 17 Aug	Friday 18 Aug
10.00 – 12.00	Arrival on QF70 at 6 am. Briefing with Curtin staff 8 am. Students to be collected by homestay hosts at 8.30 am.	Orientation and welcome morning tea English diagnostic testing Curtin student cards 201.708B CN	9.00 – 10.00 OASIS login 208.204 10.00-12.00 English class SM 211.230	English class SM 211.230	9.00 – 10.00 Tour of Nursing facilities Group to be collected in foyer of Bldg 408 10.00– 12.00 English class HR 211.230	English class SM 211.230
12.00 – 1.00	LUNCH					
1.00 – 3.00		Bus Tour of Perth MS	English for health professionals SM 211.226	English for health professionals HR 211.226	English for health professionals HR 211.226	MRSA Testing

Week One: PT/OT/Biomed Group (Group B)

Time	Sunday 13 Aug	Monday 14 Aug	Tuesday 15 Aug	Wednesday 16 Aug	Thursday 17 Aug	Friday 18 Aug
10.00 – 12.00	Arrival on QF70 at 6 am. Briefing with Curtin staff 8 am. Students to be collected by homestay hosts at 9 am.	Orientation and welcome morning tea English diagnostic testing Curtin student cards 201.708B MS	9.00 – 10.00 OASIS login 208.204 10.00-12.00 English class MS 201.228	English class CN 201.228	9.00 – 10.00 Tour of PT/Biomed facilities Group to be collected in foyer of Bldg 408 10.00– 12.00 English class CK 201.228	English class CK 201.228
12.00 – 1.00	LUNCH					
1.00 – 3.00		Bus Tour of Perth MS	English for health professionals CK 201.228	English for health professionals CK 201.228	English for health professionals CK 201.228	MRSA Testing

DEPARTMENT OF LANGUAGES AND INTERCULTURAL EDUCATION
SHINSHU UNIVERSITY ENGLISH AND HEALTH SCIENCES STUDY
TOUR PROGRAM AT CURTIN UNIVERSITY
13 August – 1 September 2006

Week Two: Nursing Group (Group A)

Time	Monday 21 Aug	Tuesday 22 Aug	Wednesday 23 Aug	Thursday 24 Aug	Friday 25 Aug
10.00 – 12.00	10 – 10.30 Morning tea with Nursing staff and students Auditing of Nursing lectures *	English for health professionals SM 211.230	English for health professionals SM 211.230	English for health professionals HR 211.230	Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Sandalford winery and Margaret River Chocolate Factory
12.00 – 1.00	BBQ Lunch with Nursing students	LUNCH			
1.00 – 3.00	Auditing of Nursing lectures*	2.00 – 4.30 Lecture: The Australian Health Care System 300.219 Pam Roberts	Library tour	1.30 – 3.00 Lecture: Health Care Careers: Professional Structures in Australia 300.218	Leave outside bldg 208 at 9 am CK

*** Nursing Lectures**

8:00am - 10:00am	Introduction to Nursing Practice 121 (405.201)
8:00am - 10:00am	Nursing Bioscience 345 (307.103)
1:00pm - 3:00pm	Nursing Bioscience 244 (405. 201)
4:00pm - 5:00pm	Research Foundations in Nursing 213(405. 201)

Week Two: PT/OT/ Biomed Group (Group B)

Time	Monday 21 Aug	Tuesday 22 Aug	Wednesday 23 Aug	Thursday 24 Aug	Friday 25 Aug
10.00 – 12.00	Auditing of PT/OT/ Biomed lectures / prac sessions*	English for health professionals MS 201.228	English for health professionals CN 201.228	English for health professionals CK 201.228	Excursion to the Swan Valley: Caversham Wildlife Park, Sandalford winery and Margaret River Chocolate Factory
12.00 – 1.00	Lunch with Curtin students 408 Level 4 Student Common Rm	LUNCH			
1.00 – 3.00	Auditing of PT/OT/ Biomed lectures / prac sessions*	2.00 – 4.30 Lecture: The Australian Health Care System 300.219 Pam Roberts	Library tour	1.30 – 3.00 Lecture: Health Care Careers: Professional Structures in Australia 300.218	Leave outside bldg 208 at 9 am CK

* PT/OT Lectures Mon 21 Aug	* Biomed Lectures Mon 21 Aug
10 – 12 Lecture - Neuroscience 201.322 (PT students only)	9 – 10 Lecture- Haematology 302.001
10 – 12 Lecture – OT 602 Human Life Science 300.214 (OT students only)	10 – 12 Laboratory session Haematology 308.109
1 – 3 p.m Lecture - Musculoskeletal Specialisation Library LT 105.107 (OT/PT students)	2 – 4 Immunology Prac 310.103B
3 – 5 Neuroscience lab 408.2510 (OT/PT students)	
5 – 7 Women’s Health lab 408.2506 (OT/PT students)	

Week Three

NB All bus pick ups are from the taxi rank outside Bldg 208 unless otherwise indicated.

Nursing Group (Group A)

Time	Monday 28 Aug	Tuesday 29 Aug	Wednesday 30 Aug	Thursday 31 Aug	Friday 1 Sept
AM	10.00 – 12.00 Lecture: Aged care / Geriatrics Barbara Horner 401.261	9.00 – 11.00 Anatomy practical session Meet in Bldg 404 foyer John Owens	Visit: Regent Garden Nursing home 9 am bus pick up	10.00 – 12.00 Lecture: Paediatrics Pam O’Nions 401.261	9.30 – 10.30 Course evaluation 208.305 10.30 – 11.30 Graduation Ceremony
12.00 – 1.00	LUNCH				
PM	1.00 – 3.00 Lecture: Critical Care 400.261 Alan Tulloch	Visit: Princess Margaret Hospital 12.30 bus pick up Margie Lane	1.00 – 3.00 Visit: King Edward Memorial Hospital Janice Butt 12.30 bus pickup	1.00 – 3.00 Visit: Mount Hospital 12.30 Bus pick up Robyn Scott	11.30 – 1.30 Lunch CN/HR

Week Three: PT and OT Group (Group B)

Time	Monday 28 Aug	Tuesday 29 Aug	Wednesday 30 Aug	Thursday 31 Aug	Friday 1 Sept
AM	FREE	9.00 – 11.00 Anatomy practical session Meet in Bldg 404 foyer John Owens	9.00 – 11.00 Visit: Regent Garden Nursing home 9 am bus pick up	9.00 – 11.00 Visit: ILC (with Biomed students) 8.30 bus pick up	9.30 – 10.30 Course evaluation 208.305 10.30 – 11.30 Graduation Ceremony
12.00 – 1.00	LUNCH				
PM	FREE	12.30 – 2.30 Clinical visit: Fremantle Hospital 12.00 bus pick up Stephanie Fullerton	Visit: King Edward Memorial Hospital 12.30 bus pick up	12.00 – 2.00 Visit: Princess Margaret Hospital	11.30 – 1.30 Lunch CN/HR

Week Three: Biomedical Sciences Group (Group C)

Time	Monday 28 Aug	Tuesday 29 Aug	Wednesday 30 Aug	Thursday 31 Aug	Friday 1 Sept
AM	FREE	Laboratory practice	Visit: Royal Perth Hospital	9.00 – 11.00 Visit: ILC (with PT/OT students) 8.30 bus pick up	9.30 – 10.30 Course evaluation 208.305 10.30 – 11.30 Graduation Ceremony
12.00 – 1.00	LUNCH				
PM	Visit: Private Laboratory, Fremantle	Visit: Red Cross	Visit: St. John of God	12.00 – 2.00 Visit: Princess Margaret Hospital ILC (with PT/OT students) Tanya Shillington	11.30 – 1.30 Lunch CN/HR

11. 学生アンケート

I 出発前の準備について

1 費用の捻出

	n	%
1) 家族が全額負担	14	50.0
2) 自己資金のみ	4	14.3
3) 自己資金と家族の支援	10	35.7

2 渡豪前の自己学習

	n	%
1) 自己学習をした	15	53.6
2) 何もしなかった	13	46.4

3 研修プログラムの発表時期

(4月の新入生・在校生オリエンテーション)

	n	%
1) 適切	25	89.3
2) 不適切	3	10.7

4 参加申込み締め切りの時期

	n	%
1) 適切	26	92.9
2) 不適切	2	7.1

5 出発ガイダンスの時期

	n	%
1) 適切	27	96.4
2) 不適切	1	3.6

II 自由記載分まとめ

1. 参加動機

- 1) 海外の医療制度を学び, 医療教育, 実践現場に触れた
い・海外の看護や医療について学びたかった
・海外の文化(英語や Physio など)を生で感じたかった
・オーストラリアの作業療法士や医療現場がどのようになっているか知りたかったから
- 2) 夢を実現し, 充実した夏休みにしたい
・海外に行ってみたかった／・留学してみたかったから
・視野を広げるため
- 3) 語学力を向上させたい
・単にホームステイをして英語力を高めたい
・ホームステイをしながら英語を学ぶ機会をはめつたにないので参加しようと思った。
- 4) 異文化に触れたい
・異文化コミュニケーション
・他の国の文化にふれたい

【事前学習した内容】

英語・英会話／オーストラリアの文化・地歴・気候
オーストラリア医療関連サイトの閲覧

【事前学習が必要だった内容】

英会話・医学英語
専門分野の予習・日本の医療システム
オーストラリアの医療システム

【コメント】

同じ曜日はやめて欲しい

【コメント】

少し早い。
6.7月がいい。

【コメント】

同じ曜日はやめて欲しい

5) 大学主催のプログラムだから

- ・私はこの大学に入る理由が Curtin でした。日本の女性らしい看護師を目指しており, グローバルな視野を経験したいと思い, 研修プログラムに参加した。
 - ・単位を得られるため
2. ホームステイについて
 - 1) 語学力の向上
 - ・英語力がUPした／・生の英語が学べた
 - ・家に帰ってからも家族との会話で英語が上達した
 - 2) 人間関係の広がり
 - ・母親がもう一人できた／・新しい家族ができた
 - ・他の国の子もいたので国際交流になった
 - 3) オーストラリアの生活・異文化を体験
 - ・生活を共にすることで, より詳しく, 人々や文化を理解できる
 - ・オーストラリアの日常生活を体験することができた
 - ・他の国の文化にふれることができた

4) 自己の生き方に対する意識の変化

- ・人として成長できたこと
- ・他人と暮らすのは大変なことが学べた

3. よかったこと・学んだこと

1) 英語力の向上

- ・英語を話す怖さがなくなった
- ・英語を聞き取りやすくなった(かもしれない)
- ・相手の行っている事がほぼ聞き取れるようになった

2) 異文化体験

- ・ホームステイを通じて海外の生活を知る事ができた
- ・オーストラリアの生活を体験できたこと
- ・ホームステイ、フリータイムの充実、全てよかった

3) 人的交流の広がり

- ・いろいろな人と仲良くなれた
- ・ホームステイ先が本当に最高だったのでよかった

4) 専門分野や医療に対する視点の広がり

- ・看護だけでなく、PTなどの他のコースを見学できた
- ・オーストラリアのケアシステムが勉強できた
- ・オーストラリアの医療制度を理解できた

5) 考え方・視野の広がり

- ・授業に積極的に取り組もうと思えるようになった

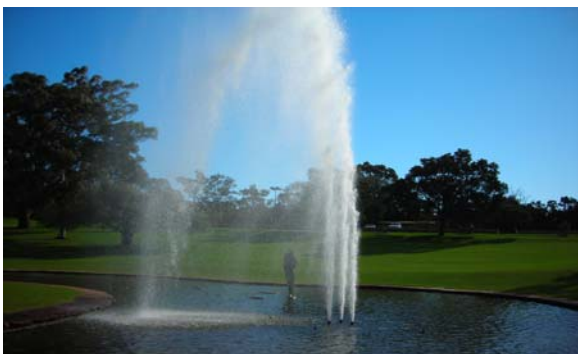
6) 充実した学習体験

- ・受動的な授業ではなく、皆が参加する感じだったので楽しかった
- ・フリーの日があったので、行きたい観光などへも行った

4. 今後の自己課題, 将来展望

1) 英語の必要性

- ・英語への関心が高まった。今後文法そのものだけでなく、思ったことを英語として表現できるような実用英語を身につけたい
- ・今までは英語が嫌いで、外国の人と話すのも苦手だったが今回の経験でそれがなくなった。話したいと思うようになった日本でも英会話の勉強をしようと思う。



2) 専門分野や医療に関する学習

- ・まだ知識のない私には、少し難しい授業もあった
- ・同じ年齢なのに、Curtin のPT学生はより実践的なことをやっていて、もっと勉強しなければいけないと思った
- ・医療に関する関心が高まり、もっと勉強したいと思った

3) 進路, 将来展望

- ・異国の文化に触れて、自分の視野が広がったと思う。将来日本だけではなくて、世界で活躍したいと思ったし、もっといろいろ知りたい、学びたいという学習意欲の向上に繋がった
- ・外国にも目を向けて進路を考えられるようになった
- ・自国だけでなく広い視野で捉えることが大切だと思った
- ・日本ではやっていない Women's Health Care の授業も聞けたし、立派な子ども病院も見ることができてよかった。小児にすこし興味が湧いた

5. 要望

- ・看護だけの講義ではなく、他のコースも見学したい
- ・英語をレベル別にして欲しい／拘束時間が長い
- ・講義の内容が難しく理解しにくい
- ・研修の時期・期間を見直して欲しい
- ・英語のクラスは実践的なものを作って欲しいと思った
- ・専門用語の英語が理解できなくて、スタッフの説明なども理解できなかったので、先生に翻訳してもらいたかった
- ・OTは4専攻のうち1番損をしているような気がするので、もう少しOTのことも考えて欲しい



↑ Rottneest island にて

←Kings Park

Ⅲ 研修に対する満足度

非常に不満

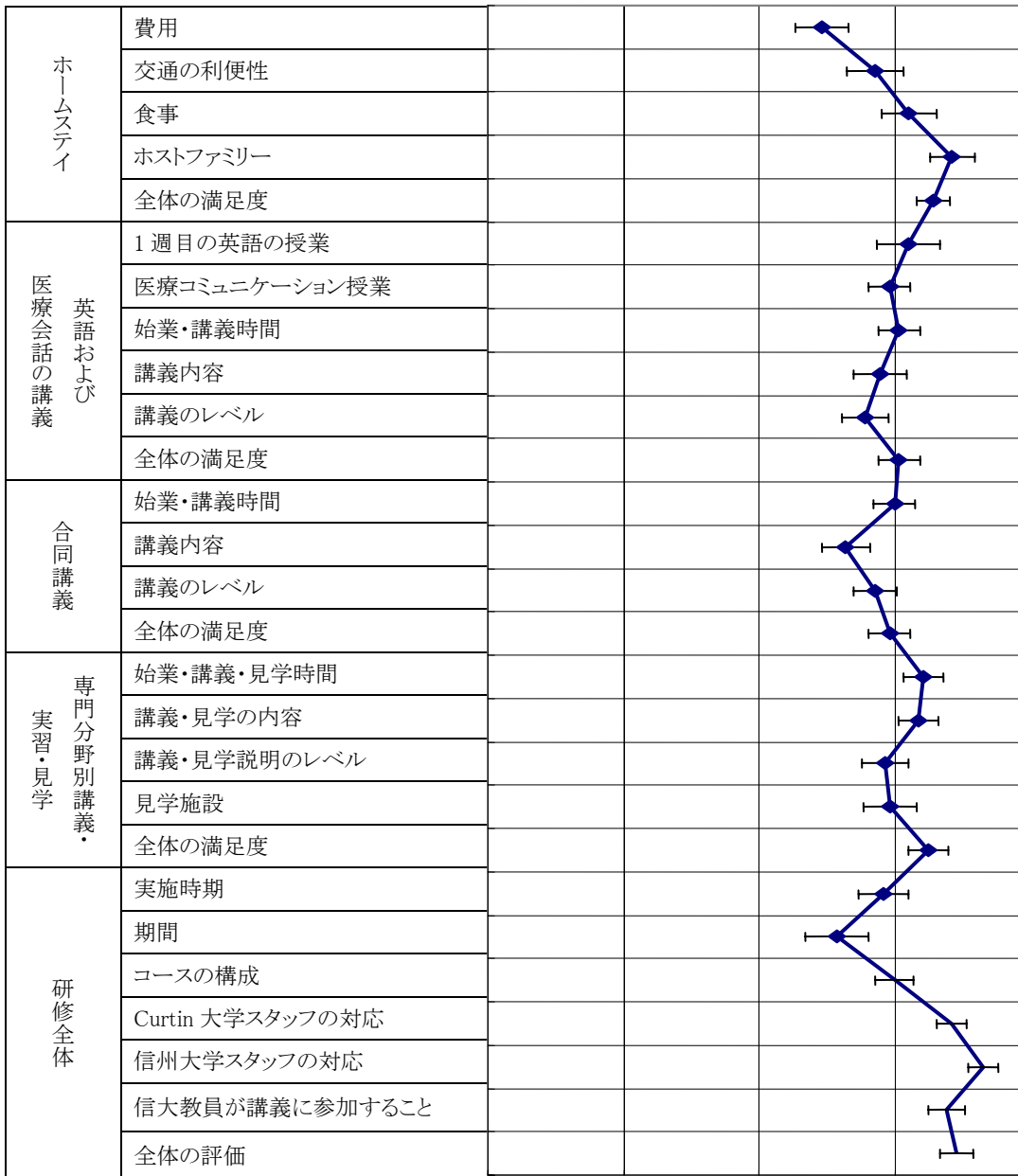
やや不満

いえない

どちらとも

やや満足

非常に満足



↑ Curtin 大学構内 →



12. 学生レポートおよび感想文

1) Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して 検査技術科学専攻 2年 05M1234A 矢島 亜希菜

私はこのプログラムに参加して、積極性が身についたと思います。私にとって初めての海外だったので、分からないことばかりで戸惑うことが多かったのですが、自分で話しかけて質問したり外出してみたりと、有意義に過ごせるよう勤めることができました。また、事前のオリエンテーションもありしっかりとサポートをしてもらえたので、安心して参加することができました。

このプログラムでは、主に英会話や医療英語の勉強、オーストラリアの医療の勉強、病院見学をしてきました。英語の授業では絵を描いてそれを使って自己紹介をしたり、数字や単位の読み方を習いゲームをして確認したりと楽しく参加することができました。また、ホームステイ先の人との会話の続け方やレストランでの注文の仕方など普段使うような英語を教えてもらえたので、すぐ生活の中で使えとも役立ちました。

大学内では検査の人が使用している実習室などを見せてもらいましたが、勉強する環境が整っていると思いました。設備としては、信州大学ではみんな共同で使っているような高温槽、遠心分離機、マイクロピペットが1人1人に与えられていました。スライドも1つの教室に2つ設置してあり見やすかったです。実際に微生物の授業に参加させてもらったのですが、そこでは実習と講義を同時進行で行っていました。そして、生徒が先生の質問に進んで答えたり質問をしたりしていて積極的な印象を受けました。

病院見学では、数箇所の病院や検査センターを訪問させてもらいました。使っている機械は信大病院と同じものもありましたし、日本製のものが多かったように感じました。検査の全体の流れは、日本と同じなのでどんなことをしているのかは分かりましたが、専門的なことになるとまだ勉強しなくて分からないことが多かったのもっと勉強して日本との違いをしっかりと比較できるようになってからもう一度訪問したいと思いました。病院としては Princess Margaret Hospital がとても印象的でした。子供病院なので、子供が病院ということで緊張しないように病院内はとてもカラフルであり、たくさんの人形が飾られていたり、医師がピエロの格好をして手品をしていたりと訪問した私まで楽しい気分になしてもらいました。日本でもこのような病院があれば、通院・入院が子供たちにとって苦でないことになると思いました。

ホームステイでは、ホストファミリーが本当に親切にしてくれたため不安なく生活できました。私のホストファミリーはお母さんが看護師で主に夜勤で働いていて、お父さんが主夫で家にいて家事をしていました。主夫と聞いて日本でもほとんどいないのではじめは驚きましたが、楽しそうに料理をしている姿やアイロンがけをしている姿、そして“Kitchen is my office.”と自信を持って言っている姿をみて、主夫という仕事に誇りを持っていると分かりました。私も誇りをもって続けられる仕事につきたいと思いました。また、お父さんの妹もホストファミリーをしていてそこでホームステイをしている人・以前ホームステイをしていた人達と一緒にバーベキューをする機会がありました。世界各地から集まった約15人の人達と色々な話をして、文化の交流をして(各国の国歌を聞かせてもらいました。もちろん私も君が代を歌いました…)すごく興味深いものでした。そして、世界にはさまざまな言語がありますが英語という共通語を使えば、交流ができるのだと改めて実感しましたし、もっと英語を勉強したいと思いました。

また、留学して感じたことはオーストラリアの人はとても親切であるということです。私が初めて電車に乗ったとき、どこで降りればいいのか分からず地図を見ていると、見知らぬ女の人が声をかけてくれました。その女の人は私と同じ駅で降りるので一緒にいてくれたうえ、私が次に乗り換えるバス停まで連れて行ってくれました。本当に助かりましたし、あまりに親切な人で感動してしまいました。そのため日本ではあまり人に道を聞いたりしないのですが、見知らぬ人に話かけて教えてもらうことが多くありました。

今回このプログラムに参加して本当によかったと思います。3週間は長いと思っていましたが、向こうで過ごす時間は何もかもが新鮮で、とても充実していてあっという間に過ぎてしまいました。流暢に英語は話せるようにはなりませんが、聞き取ることは大分できるようになりましたし、英語の勉強・専門の勉強をもっとしなければいけないと思いました。そして自分の世界が広がったように思うので、オーストラリア以外にも色々出かけたくくなりました。

2) Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して

理学療法学専攻 2年 05M1308H 高津 志歩

私は

- ① ホームステイをして違う国の人々と接したい
- ② 違う国の理学療法について学びたい

という2つの理由からこのプログラムに参加しました。特にオーストラリアは理学療法士に開業権が与えられており日本とは大きく異なるので、関心がありました。

3週間のうちの1週目は英語の授業です。医療英語と普通の英語の2つの授業がありますが、医療英語では病院で行われる英会話や医療英単語を学びます。一方普通の英語の授業ではホストファミリーとの会話や話題提起の仕方を学びます。私はこの授業で習ったことをかなり実践したと思います。もともと英会話力が無く、事前学習もほとんどしていなかったのですが、積極的にホストファミリーと会話をした事で自然と英会話力が上達しました。最後の何日間かは、毎日のように2時間以上お互いの文化、社会のこと、自分のことなどたくさん話をすることができました。会話は文法がきちっとしていなくても成り立ちます。文法は気にせず、単語を並べればたいい理解してくれます。ただ私の場合、単語の語彙数が少なく発音も悪かったのもっと単語を覚えていけばよかったと後悔しました。ホストファミリーと過ごした時間だけで私はとても成長できたと思います。考え方が変わったというよりか、考え方が広がった気がします。ようやく会話が成り立つようになったところだったので、帰国したくありませんでした。3週間という期間は私には短すぎました。

2週目はカーティン工科大学の理学療法学専攻の学生と一緒に授業を受けたり、他の専攻の先生の授業を受けたりしました。そして3週目は様々な医療施設を見学しました。理学療法学専攻の学生との合同授業はパワーポイントの図などからすでに日本で習ったことであることが分かりましたが、全部英語だったためほとんど理解できませんでした。しかしギブスを作る実技の授業は日本ではできないことだったので良い経験になったと思います。合同授業や施設見学で強く感じたことは、日本よりも医療に多く費用が掛けられているということです。大学に設置されている様々な機器や学習環境がとても整っており、実践的な教育が受けられると思いました。また施設見学で訪れた子供病院は病院とは思えないようなところで、子供が安心して治療が受けられるような様々な工夫がされていました。

オーストラリアでは開業権があるということもあり、日本よりも理学療法に関する認知度が高く、理学療法士の地位も高いように思います。また理学療法士の活躍の場も日本より多くあります。例えば見学した woman's health の病院では産婦人科で理学療法士が活躍していました。陣痛を和らげるためのエクササイズを指導したり、帝王切開後の回復のためのエクササイズを指導したりするそうです。日本では産婦人科に理学療法士がいることはめったに無いことなので、とても驚きましたが、活躍の場が多くあるのは羨ましく思いました。

今回のプログラムを終えて、やはり日本はリハビリテーションに関する環境がまだまだ遅れていると感じ、海外でもっと広い知識を入れたいという思いがより現実的になりました。それと同時に、まずは日本でできることをしっかりとやらなければならないと思いました。学習面だけでなく、ホームステイをしたことで人間的にも成長できたと思うし、オーストラリアに来なければ感じられなかったこと、経験できなかったこともたくさんあります。参加しようか迷っている人がいたら自身を持って勧めます。私はこのプログラムに参加できて本当に良かったです。

3) 3週間の海外生活

作業療法学専攻 2年 05M1403C 大西 あゆみ

このオーストラリアで過ごした3週間は、私が想像していた以上に有意義なものであった。私がこのプログラムに参加した理由はただ単に「初めての海外に行ってホームステイしてみたい」という単純かつ漠然としたものだった。しかし実際に行ってみると全てが体験したことのないことであった。道を歩いていてもお店に入っても家に帰ってもずっと英語が付いてくる生活、そして日本ではなかなか見られないであろう大きな公園、どこを見渡しても見飽きない景色、全てが新鮮であった。何よりも道端を歩いているだけで挨拶をしてきてくれる現地の人の優しさに私は心を打たれる毎日であった。

まず英語についてだが、私が最初、最も驚いたことは現地の人が話す英語のスピードが想像以上に速く、聞き取ることができなかったことである。それは私が中学校・高校と勉強していた中で聞いたこともないオーストラリア独特のなまりのある英語であった。最初、ホームステイ先のホストファミリーとの会話に最も苦戦した。単語が一言も聞き取る

ことができないのである。しかし、最終的には耳が徐々に慣れていき、最初ほど聞き返すこともなく会話をするようになるようになった。Speaking の方だが自分の単語知識の無さに気づかされる毎日だった。自分の伝えたいことが伝えたいけど伝えることができないもどかしさを何度も感じた。しかし、日本語ではない言語で他の国の人と会話をするということは様々な発見があり、徐々に相手の伝えたい事が分かるようになってくるという今まで体験したことがないようなうれしさがあつた。

また私が実際の作業療法の授業を実際に受けて感じたことは、学生の授業に対する積極性である。先生が質問を問えば必ず誰かが発言し、そのことにより授業が進んでいく。授業は全て理解することはできなかったが、それは日本では感じたことがない雰囲気であった。何よりも私が今回で最も印象に残った授業は、作業療法の先生が、作業療法士が何をする職業であるのか私たちに話してくれた授業である。障害をもった人がどうすればお風呂に入ることができるようになるのか、料理をすることができるようになるのか、車を運転することができるようになるのか、それは基本的なことであったが、私に改めて多くのことを考えさせる機会を与えてくれた。彼女の語り口調や生き生きとした表情から、英語を全て理解できない私にも彼女がどれだけ作業療法士という職業に誇りをもって働いているのかひしひしと伝わってきた。そして作業療法が何をするものであるのか根本的な中身を何も知らないで何となく大学で勉強してきた自分にも気づくことができ本当によかつたと思う。そして今回の学生や先生の話聞いていて改めて自分の勉強不足を痛感した。またオーストラリアと日本の作業療法士の違いとしてはほとんどの人が病院ではなくコミュニティベースで働いているということである。またアボリジニーの健康問題など解決しなければいけない問題はたくさんあるように思えた。

ホームステイでは、私が過ごした家はイギリス人であるホストファザーと日本人であるホストマザー、そして2人の子供である11歳の女の子という家族構成になっていた。初めはなかなか自分からホストファミリーに話しかけることはできなかったのだが、徐々にその子供であるリサと打ち解けることができるようになっていった。暮らしていく中で食事の面における文化の違いや自分の家族とはまた違った形の家族の雰囲気に戸惑うことは多々あつたが、毎日のようにサンドイッチとお菓子がいっぱい詰まった弁当箱を作ってくれ、晩御飯から何からお世話をしてくれたホストマザー、また何度も何度も単語が聞き取れず理解できなかった私に話しかけてくれたホストファザーには本当に感謝したい。

最後に、今回の3週間という月日は私が今まで生きてきたなかで確実に1番と言っていいほど充実したものであつた。しかし自分の中で何が変わったのか、何を達成することができたのかは漠然としすぎて、正直よく分からない。しかし、オーストラリアという初めての土地に行き、その日本とは違った自由な雰囲気、様々な国の人との出逢い、そして見渡す限りの自然から私は日本という狭い国に暮らしていて知らないことがまだまだたくさんあるのだなという事に気づいた。まだまだ自分には何かできるチャンスがいっぱいあると思った。確実に自分の中で世界は広がったように感じる。とりあえず作業療法についてもっと勉強し、もっと多くの事に目を向けてみようと思う。そして今回の研修を機会にもっと様々な所に行ってみて、多くの事を経験したい。

今回カーティンプログラムに関わり運営してくださつた先生方には本当に感謝している。

4) Curtin 工科大学短期留学プログラムに参加して

看護学専攻 3年 04M1148A 筒井 舞

今回の短期留学は私にとって初めての海外だったので、すべての体験が貴重な経験となつた。

まずロットネスト島やピナクルズでは、大自然の雄大さを肌で感じ「地球ってこんなに広くて綺麗なんだ」と思った。日本では感じることでできない自然の大きさがめいっぱいあつたし、透き通つたエメラルドグリーンの海岸はいつまでも心の中にあり続けると思う。また、日々の生活の中で見た、大きな雲と太陽、夕日、そして星空はとても素敵で、感動の連続だった。日本でもたくさんの自然を見てきたが、スケールが違いすぎて見た事のないものばかりだった。雄大な自然を目の前にして、自分の小ささを知るとともに、この地球に生まれてきてよかつたと感謝したい気持ちにもなつた。

次に、文化や人種の違いも肌で感じた。他文化を学校で習うのと実際に体験するのでは全然違う感覚だった。また、人種の違いによる差別に対しても感じるころがあつた。黒人に対する差別は公になっていたけど、黄色人種にも差別があることを目の当たりにして、すごくショックだったし、差別を受けることのつらさを身近に感じた。今日でも人種差別は根強く残っているという社会についても、この短期留学で学んだことのひとつだった。

医療の面では Princess Margaret Hospital, Regent Garden Nursing home, Mount Hospital への訪問が印象的だった。Princess Margaret Hospital では小児の遊びという視点をとても重視していて、患児だけでなくその親や兄弟も楽しめるような施設を併せ持っていることに感心した。遊びは成長発達の中で重要な役割を果たしていること、患児の親もサポートしていかなければならないこと、患児の兄弟の成長発達(患児と兄弟の関わり・兄弟と親の関わり)にも目を向けることなど、授業で習ってきたことが手本のように示されていて、小児科にとって理想の施設だと思った。Regent Garden Nursing home では、高齢者がケアを受けながらも、なるべく日常生活と変わらないように、そして楽しむことができるようにたくさん工夫がされていたり、また家族が見舞いに来たいと思うように家族も楽しめるようにしていたりするところに感心した。それと同時に、実習した老人ホームとあまりに違いすぎて衝撃的だった。高齢化の進む日本でも、Regent Garden Nursing home ほどに優雅でないにしても、介護ケアのほかに日常生活に重点をおいた施設がもっとできるといいなと思った。Mount Hospital では入院期間がとても短いことが印象的だった。ドレーンを入れたまま退院することや、関節の置換術で体位に制限がある人でも何日かで退院することなど、日本では考えられないようなスピードで入退院が行われていて本当に驚いたが、それだけ地域との密接な関わりが成り立っていて、日本のチーム医療はまだまだだと思った。

いくつかの病院訪問を終えてみて、患者さんにとって一番大切なことは、日常生活により近い状態で治療やリハビリをしていくということだと改めて思った。日本は医療の面では先進国かもしれないが、入院や施設の入居に関しては日常生活とかけ離れていると感じた。オーストラリアと日本の医療を学んで、双方に優れている面・劣っている面を見つけて、これからの看護ケアにつなげていこうと思う。

3週間の留学を体験できて、本当によかった。たくさんの人にお世話になり、心から感謝したいと思う。

5) 短期留学プログラムに参加して

看護学専攻 3年 04M1191K 由井 千鶴

Curtin 工科大学短期留学プログラムを通じて、沢山のことを学ぶことができた。その中で、最も印象に残ったことを三つ述べる。

まず一つ目は、英語を通していろんな人と交流できたことである。私のホームステイ先には、インドネシアとタイからの留学生がいたのだが、最も印象に残ったのは、英語を通して彼らと交流することができたことである。私の英語はつたないものであったけれども、彼らと一緒に笑ったり、楽しく過ごせたことがとても嬉しかった。特にタイからの留学生とは3週間ずっと同じステイ先で暮らしていたことから、学校から一緒に帰ったり、外出したり、とても親しくなることができた。オーストラリアにやってきた頃は、何もかもが不安で仕方がなかったけれども、英語を通して、いろんな人と関わりを持てたということは、私にとって、このプログラムで最もかけがえのない経験となったと思う。

二つ目は、海外の医療制度やシステムを学んだり、実際の医療現場を見学することができたことである。特にオーストラリアの看護師やPTの制度、業務内容などは、処方できる看護師がいたり、PTに開業権があったり、日本と随分違っており、驚きを感じた。私はオーストラリアの医療制度をあまり知らなかったのので、今回このプログラムを通して詳しく知ることができて良かった。海外の医療制度を知ることによって、オーストラリアと日本の医療を比べることができたと思う。

病院や施設見学では、三つの病院とナーシングハウスを訪問した。訪問先の病院ではICUや一般病棟以外に、小児専門病院ではプレイルームや年齢に合わせた病棟を、産婦人科専門病院では分娩室や新生児室などを見学することができた。病院の設備は日本と似ている印象を受けたが、小児専門病院のプレイルームや年齢ごとの病棟などは、日本でも見たことがなかったので、見学することができて良かった。

三つ目は、海外で働いている日本人看護師さんたちから話を伺うことができたことである。オーストラリアと日本の看護の違いなど、実際にそこで働いている人から聞くことができ、いろいろ質問もできたのでとても参考になった。また話を伺って、オーストラリアの看護の良さだけでなく、日本の看護の良さに気付かされた。改めて日本の医療を考える良い機会になったと思う。

英語の中で過ごした3週間は、当初私が想像していた以上に、楽しく充実したものとなった。今回この短期留学プログラムに参加したことで、貴重な体験をすることができた。



←Perth 到着。

空港で、Host Mother に会いました。
「うちは～だから、よろしく。」

English test できたかな?→



↑ログインできた?



← それぞれの English class にて。↑



←看護実習室の見学。「あっ、これは日本と同じ」ものが、たくさんありました。



↑みんな真剣に聞いています。



↑ティータイム。「オーストラリアでは、～ですか？」英語で質問してみよう！！ →



←Fremantle Hospital のクラウンドクター：病院で活躍するプロのピエロです。様々な病院に出向き、活動しています。





↑ Caversham Wildlife Park で、 Camel riding!



↑ ウオンバットと記念写真。
カンガルーをみんなで囲んで。 →



↑ Sandalford Winery でワインの説明。
どれがおいしいかな。

↓ Pinackles へ。広かったね。





(Caversham Wildlife Parkにて)

【編集後記】

カーティン工科大学プログラムも、本年度で6回目を迎えた。学生にとっては、日本でイメージしていた看護、臨床検査、理学療法、作業療法の範囲を超えて、新たな発展の可能性を知る機会であり、英語や専門分野の学習を深めていく意欲をかきたてられる体験でもあった。

ホームステイも大きな体験である。意思疎通の難しさ、生活習慣や食事の違い、表現する文化と察する文化のギャップなど、違和感やストレスを覚え、また発見や驚きがあり、その中から自分と自分の文化をふりかえるチャンスである。

実施6年目を迎え、新たな課題もある。諸費用の上昇に伴いプログラムをいかに効率化していくか、効率化の中で学生の安全や精神的サポートをいかに確保していくか、大学院設置も睨みながら、研究教育領域での交流をいかに発展させていくか、など、今後検討していく必要がある。

最後に本プログラムを支えて下さった教職員の方々、本プログラムに資金的な支援をいただいた同窓会の方々に、深く感謝申し上げます。 (文責:松澤有夏)

.....

「信州大学-Curtin University of Technology 大学間学術交流協定に
基づく平成18年度夏期海外単位認定プログラム 実施報告書」

2006年11月15日

発行責任者:市川元基

編集 :平成18年度夏期留学・単位取得プログラム担当チーム

発行 :信州大学医学部保健学科

.....